

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな 経済フラッシュ (ECB <欧州中央銀行> 理事会)

2022/3/11

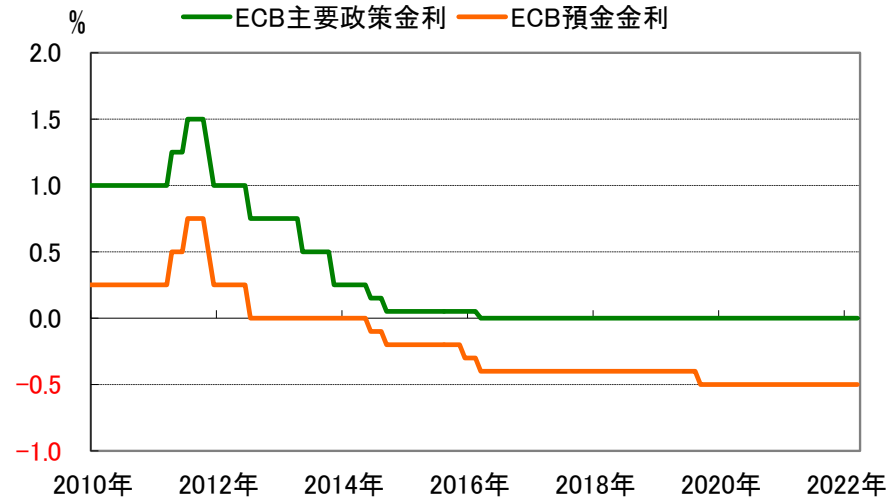
りそなホールディングス 市場企画部

〇概況

- ◆ ECB理事会では主要政策金利は据え置きとなった
- ◆ 景気見通しは下方修正、物価見通しは上方修正
- ◆ 量的緩和プログラムは前倒しの終了を示唆。当面ウクライナ情勢の不透明感強く、景気・物価を点検しつつの機動的運営となる

- ✓ 3月10日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、中銀預金金利は▲0.50%、主要リファイナンス金利は0.00%、中銀貸出金利は0.25%で据え置いた。
- ✓ ECBスタッフによる成長と物価見通しについては右下図の通り。ウクライナ情勢の悪化も踏まえて2022年は+4.2%→+3.7%に下方修正。インフレ率については、エネルギー価格の上昇を踏まえ+3.2%→+5.1%に大幅に上方修正させた。**2023年以降については成長見通しを修正させおらず、ウクライナ情勢については短期収束が前提となっている。**物価についても2023年は2%を上回る水準となっているが、2024年については2%を下回る水準に落ち着くことが前提となっている。
- ✓ 債券購入プログラム(APP)については4月400億ドル、5月300億ドル、6月200億ドルに漸減。7月以降の方針についてはデータ次第とした。**今回の決定は早ければ7-9月に終了させる可能性を示唆している。インフレ警戒感が強まっていることが背景。**
- ✓ フォワードガイダンス（将来の金融政策方針）については、「(1)インフレ率が予測期間（現在は22-24年）の終わりよりもかなり前に2%に達し、(2)残りの予測期間は持続的に2%に達すると予想するまで、(3)また基調的なインフレ率が中期的な2%の物価安定と一致するよう十分に進展していると判断するまで、現状 ~~ないし現状を下回る~~ レベルで政策金利を維持する」と将来的な利下げの可能性も示唆する「現状を下回る」の部分が削除された。但し、**利上げについては量的緩和終了後「すぐ」から「いずれかの時期」と曖昧な形に修正した。**
- ✓ **市場想定より景気・物価認識や量的緩和プログラム縮小ペースはややタカ派な内容となった。但し、ラガルド総裁は記者会見で「データ次第」との発言を繰り返した。ウクライナ情勢に不透明感強く、当面毎会合で景気・物価情勢を点検しつつの機動的運営となる。**

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（3月時点）】

	2022年	2023年	2024年
実質GDP成長率	+3.7	+2.8	+1.6
12月時点の見通し	+4.2	+2.9	+1.6
HICP(消費者物価)	+5.1	+2.1	+1.9
12月時点の見通し	+3.2	+1.8	+1.8

前年比、%

【出所】ECB, Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。